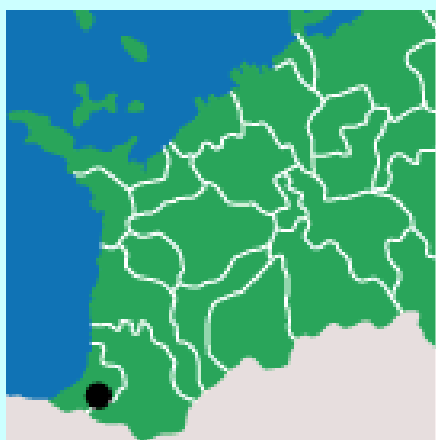


こうちいけ 河内池



諸元

貯水量	24万3千m ³
満水面積	3.2ha
集水面積	197.5ha
受益面積	86.8ha
堤高	17.8m
堤長	187m

赤ちゃんのお姫さまを懐に入れた姥（うば）が、敵の手にかかるのを逃れて、ため池に飛び込んだという伝説が残る「姥ケ懐池」。この「上池」として造られ、下流の姥ケ懐池がカラになると放流される仕組みになっています。

造られた時代は確かではありませんが、最初は下切りの谷をせき止め、姥ケ懐池の約3分の1ほどの大きさでした。大正14年（1925年）に当時の大地主である今井伝太らの尽力により改築に着手し、昭和6年（1931年）に姥ケ懐池とほぼ同じ規模の貯水量を有するため池として完成しました。

この工事は大半が手仕事で、このため池の恩恵を受ける小作人の中から選ばれた人夫が一日70人から80人も工事にあたりました。完成までに二人が犠牲になり、この霊を供養してお地藏さんがまつられています。トロッコが文明の利器としてもてはやされた時代のことです。

